（禁無断転載）

解答はすべて解答用紙に記入し提出して下さい。

第１回　簿記定期試験

問 題 用 紙

３　級

（制限時間　２時間）

簿記の教室　メイプル

Copyright © 簿記の教室メイプル

（禁無断転載）

第 1 問（20 点）

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適当と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	受取手形	売掛金
仮払金	租税公課	土地	未収入金
支払手形	買掛金	未払金	仮受金
貸倒引当金	現金過不足	売上	受取地代
受取利息	所得税預り金	仕入	支払地代
固定資産売却損	貸倒損失	給料	固定資産売却益

1. 本日、現金の実査を行ったところ、現金の実際有高が帳簿残高より￥26,000 少ないことが判明したため、帳簿残高と実際有高とを一致させる処理を行うとともに、引き続き原因を調査することとした。
2. 鳥取商事㈱から商品￥100,000 を仕入れ、代金のうち￥70,000 は小切手を振り出して支払い、残額は掛けとした。なお、引取運賃￥5,000 は現金で支払った。
3. 従業員に対する給料￥380,000 について、所得税の源泉徴収額￥35,000 を差し引き、残額を現金で支給した。
4. 得意先が倒産し、前年度の商品売上にかかわる売掛金￥60,000 が回収できなくなったので、貸倒れの処理を行う。なお、貸倒引当金の残高は￥50,000 である。
5. 以前に購入していた土地（購入価格￥820,000、購入手数料￥30,000）を￥890,000 で売却し、代金は後日受け取ることにした。

第 2 問（10 点）

宮城商事㈱の×年 9 月の取引は次のとおりである。これらにもとづいて、それぞれの日付の取引が、答案用紙に示したどの補助簿に記入されるか、答案用紙の解答欄に○印を付しなさい。

4 日　山形精工㈱から商品￥280,000 を仕入れ、代金のうち￥200,000 については約束手形を振り出して支払い、残額は掛けとした。なお、引取運賃￥10,000 については現金で支払った。

10 日　福島物産㈱に商品￥350,000 を売り渡し、代金のうち￥250,000 については、同社振り出しの約束手形で受け取り、残額については掛けとした。なお、当社負担の発送費￥12,000 については小切手を振り出して支払った。

15 日　10 日に福島物産㈱に対して売り渡した商品の一部に汚損があったため、￥20,000 分の返品を求められ、これを承諾し、掛代金から差し引くこととした。

22 日　茨城技研㈱は備品を￥500,000 で購入（減価償却は耐用年数 5 年、残存価額ゼロにて行う）し、代金のうち￥300,000 は小切手を振り出して支払い、残額は翌月末に支払うこととした。なお、引取運賃￥20,000 は現金で支払った。

26 日　群馬酒販㈱は、ビール等の商品を￥8,000 で販売し、代金のうち￥5,000 はビール券で受け取り、残額は現金で受け取った。

Copyright © 簿記の教室メイプル

（禁無断転載）

第 3 問（30 点）

次に示した石川商事㈱の×5 年 2 月末の合計試算表と、×5 年 3 月中の同社の取引資料にもとづき、同社の同年 3 月 31 日の残高試算表を作成しなさい。

合　計　試　算　表

×5年2月28日

借　　方	勘　定　科　目	貸　　方
262,000	現　　金	154,000
449,000	当　座　預　金	280,000
340,000	受　取　手　形	150,000
236,000	売　　掛　　金	115,000
112,000	繰　越　商　品	
600,000	備　　品	
90,000	支　払　手　形	210,000
69,000	買　　掛　　金	155,000
70,000	借　　入　　金	250,000
38,000	未　　払　　金	45,000
	貸　倒　引　当　金	4,000
	備品減価償却累計額	150,000
	資　　本　　金	500,000
	繰越利益剰余金	200,000
	売　　上	385,000
	受　取　手　数　料	8,000
228,000	仕　　入	
100,000	給　　料	
5,000	旅　費　交　通　費	
7,000	支　払　利　息	
2,606,000		2,606,000

【3 月中の取引】

1 日　商品代金として先に振り出した約束手形￥48,000 の期日が到来し、当座預金から引き落とされた。

4 日　秋田商事㈱へ商品￥87,000 を売上げ、代金のうち￥17,000 を現金で受け取り、残額は掛けとした。

9 日　岩手商事㈱より商品￥82,000 を仕入れ、代金のうち￥12,000 は現金で支払い、残額は掛けとした。

12 日　社員の出張のために旅費￥15,000 を現金で概算払いした。

14 日　出張中の社員から当座預金口座へ￥70,000 の振込があったが、その内容は不明である。

17 日　出張中の社員が帰社し、概算払いをしていた旅費の精算を行い、現金￥3,000 を社員より現金で受け取った。なお、14 日の振込は青森商事㈱よりの商品注文にかかわる手付金であることが判明した。

20 日　秋田商事㈱へ売上げた商品が一部品違いのため返品を受けた。この分の代金￥20,000 は売掛金から差し引くことにした。

21 日　宮城商事㈱から受け取った約束手形￥60,000 の決済日が到来し、当座預金口座への振込があった旨の連絡が銀行よりあった。

24 日　青森商事㈱へ商品￥100,000 を売上げ、手付金を差し引き、残額は掛けとした。

25 日　本月の給料￥50,000 を現金で支払った。

27 日　山形商事㈱の商品の売上の仲介をし、手数料￥6,000 を同社振出しの小切手で受け取った。

30 日　秋田商事㈱に対する売掛金￥40,000 を同社振出しの約束手形で回収した。

Copyright © 簿記の教室メイプル

第 4 問（10 点）

次の各取引を、答案用紙の各伝票に起票しなさい。なお、当社は 3 伝票制を採用している。

(1)　従業員の出張にさいし、旅費交通費の概算額として￥80,000 を渡していたが、本日、従業員が帰社したため、旅費交通費の精算を行い、不足額￥5,000 を現金で支払った（旅費交通費の計上は、精算時に行う）。

(2)　従業員に対する本月分給料（支給総額）￥640,000 の支払いにあたり、所得税の源泉徴収額￥30,000 を差し引き、残額を現金で支払った（支給総額を出金処理し、所得税額を入金処理する方法による）。

第 5 問（30 点）

次の〔決算修正事項その他〕にもとづいて、答案用紙の精算表を完成しなさい。会計期間は 1 年、決算日は 12 月 31 日である。

〔決算修正事項その他〕

1. 現金過不足のうち￥700 は、受取手数料の記帳もれによるものであることが判明した。しかし、残額については原因が不明であるので、適切に処理することにした。
2. 受取手形と売掛金の期末残高総額に対して 3%の貸倒れを見積もる。貸倒引当金の設定は差額補充法により行う。
3. 商品の期末棚卸高は￥43,000 である。売上原価は「仕入」の行で計算する。
4. 切手の未使用高は￥1,200 である。
5. 建物（耐用年数は 20 年、残存価額は取得原価の 10%）および備品（耐用年数は 6 年、残存価額はゼロ）について、それぞれ定額法を用いて減価償却を行う。
6. 保険料のうち￥3,600 は、当期の 9 月 1 日に保険に加入し、向こう 1 年分（12 か月）の保険料を一括して支払ったものである。
7. 借入金のうち￥100,000 は、当期の 3 月 1 日に借入期間 1 年、利率年 3%の条件で借り入れたものであり、借入にともなう利息は返済期限に元金とともに一括して支払うことになっている。

Copyright © 簿記の教室メイプル